

「 さ さ え 」

2009年4月発行 情報誌 第27号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学付属研究所 生涯福祉研究センター - 内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyounet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

床ずれ防止ハイブリッドエアマット「ピーウェーブ」

P-Wave



介護保険貸与対象商品

本製品は福岡県産炭地域振興センターの助成を受けて産学官で共同開発した商品です。

特長

床ずれが一番発生しやすい腰周り部分だけが膨縮するエアマットタイプ。
部分的なエアマットなので浮遊感が少なく寝心地がとてもよい。



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

「私の最期にこの歌を歌って」

NPO福祉用具ネット理事長 豊田 謙二（熊本学園大学社会福祉学部教授）

「医療モデル」から「社会モデル」への転換、という先駆的な実践は、周知の1970年代トリエステ（イタリア）における精神病院解体運動であろう。それは、治療の対象から就労の主体への、つまり精神病患者から精神障害のある市民への転換を図ることであった。その運動の衝撃はいまなお世界的な規模で、深い影響を与え続けているが、1908年にその映画化が完成し好評を博しているという。その映画のタイトルは、「大丈夫、できるよ」（イタリア語）とされた。

「社会モデル」は精神障害者の課題に限られているわけではない。病になっても、心身の不自由さを抱えても、「人間として」の「良い生活（ウエルビーイング）」が保障されることだからである。老いは生活上の支障を増やすが、その地で生活を継続したいという願いは適えられるのだろうか。そこで、福岡市南区に住み続け、その地で生涯を終えた東ソさんの個人史の一端を紹介したい。その生涯に、わたしたちが友人とともに生き続けられるヒントを読み解けるのである。

東さんは夫を看取った後も一人での生活を続けていたが、97歳になって娘の住む近くに居を移す。たが調理中に服をこがすことがあり、安全のために近くのケアハウスに入居した。ところが、ある日転倒して大腿骨を骨折し入院となる。高齢のために手術が不可能なため車椅子での病院生活が始まる。

東さんは、自身も設立に寄与したNPO笑顔での「クリスマス会」への参加を望み、病院からケアハウス職員による送迎を得てこれを実現する。ケアハウス職員の送迎は事業外の「ボランティア」である。東さんは病院からケアハウスに帰ることを望むが、ケアハウスは「自立的生活」を前提としており、夜間での人手が足りず不安なのである。結局は、同じ施設内の老人保健施設に入居して、食事の度に訪問介護のヘルパーの介助で、ケアハウスのレストランに移動となる。この介助でケアハウスの友人たちとの付き合いが取り戻せたのである。ここでも、ヘルパーによる事業外の支援が得られている。

NPO笑顔のデイサービスにも週2回通い始め、友人たちとの再会も果たせた。東さんへの支援を取り巻く事業所と家族が連携しつつ、思い出の詰まった地での生活を継続させた。それぞれの事業所が、法制度に定められ壁を超えて連携を実現させたが、ケアマネジャーのコーディネートにもよるが、東さんの果たした地域活動という個人史が周囲の人を動かしたのである。

東さんは99歳を迎えた。12月、あれほど望んだ外出や整容も嫌がる状態が始まった。医師は厳しい状況という。娘さんは、東さんの子ども、孫、ひ孫20名を、ケアハウスに住む東さんの枕元に集めた。そこで東さんの好きな歌、「月の砂漠」を皆で合唱した。この歌には大切な思い出がある。82歳の東さんの初めての海外旅行、それは娘さん夫婦がシルクロードに誘った旅であった。真夜中の砂漠に月だけが天中に輝き、静寂が支配した車中で東さんは「月の砂漠」を口ずさむ。車中の旅人20名はこの歌に和し、合唱が人の輪を成した。娘さんはその最期を思い出す。「母、東は月の砂漠の歌にリズムをとっているようで指が動いたのです。意識は無いはずなのに、きっと歌が届いたのです」。そのケアハウスで仮通夜。

東さんが「もう一度行きたい」、と望んでいたNPO笑顔で「東さんを送る会」が開かれた。東さんの願いはこうして実現できた。12月23日の寒い日に、東さんの友人たちは駆けつけた。もう一度東さんに会えるからである。NPO笑顔での思い出の歌、そして別れの歌となる「月の砂漠」が友人たちによって合唱された。屋外で参列する人たちにも歌は拡がりながら、東さんは別れの時にも、「人の輪」の大切さを友に贈り、そして友人たちにこの地での生活が継続できることを、自身の身をもって示した。いま、この地区には住民ネットワーク「ふれあい会」が結成された。

東さんへの思い出をいっぱいにつめて込んで。

足と靴の相談室オープン（シリーズ2）

～相談から靴のお渡しまで～

福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター 助手 中藤広美

（NPO福祉用具ネット理事）

前は「足と靴の相談室」と聞いて耳慣れない方も多かったのでは？今回は実際に相談からお渡しまでがどのような手順で進められているのかをご紹介します。最初は、来室するとすぐに自分に合った靴がもらえると思っている方が多いのですが、実際は1時間半～2時間の相談があります。クライアントも私も、終わった時には「ふ～っ！一仕事した」というような気分です。また、健康保険による足底装具や靴型装具をご希望の方はその後、連携している整形外科宛に紹介状を作成しお渡します。

～相談からお渡しまで～

電話などで予約をする

まずは相談室にご連絡をいただき予約をします。その際、足や靴のトラブルの概略、今履いている靴のサイズなどをお聞きして、日程調整をします。

相談の実際

カルテの作成 問診 足をきれいにふく

フットプリントを取る（足はよごれませんよ。ズボンの場合は膝まであがるものにして下さい）

足関節などの触診

足の状態を写真に撮る（膝から下の脚部、足部のバランスを拝見します）

脚長差測定

歩装具を制作の場合はトリシャム

靴の選定（現在、FPUのロゴがはいったAMSTWとAFWをご提案できます）

歩容チェック

靴の正しい歩き方や歩き方のアドバイス

靴のお渡しまで

靴のカスタマイズを希望されない方や疾患のない方はその場でお渡しをします。

上記以外の方は、加工は東京のNPO靴総合技術研究所に依頼するため、1ヵ月半程度（保険適応の方は受診後から）のお時間をいただいたのちにお渡しします。疾患のため健康保険を使う場合は、紹介状をお渡しますので連携病院に持参し受診して下さい。病院からの診断内容をお受けして製作にとりかかります。

靴が出来上り後、再度日程調整をして来室していただきフィッティングをします。保険で作った方は、その後、連携病院へ行っていただき装着状況を確認してもらい装具装着証明書を出してもらいます。＊療養費の支給については来室の際、ご説明いたします。

なお、靴は必要ないが相談のみをしたいという方もご遠慮なくどうぞ。

フットプリント っちゃんね？

「ふむふむ… 段取りはわかったけど、いま一つ具体的な様子がイメージできんな…」なんて声がどこから聞こえてきそうです。そこで、もう少し詳しくお話します。「フットプリント(写真1)」は足圧を測定するものです。



現在はフットスキャナーなんてものもありますが、私たちアナログなドイツ製のフットプリンターを使用しています。なかなかこれがバカにできません。足圧、立った時のバランスやその他の情報が満載です。

写真1

下の足の写真の方は外反母趾のため、なかなか合う靴がなく痛くてたまらず困っていたとき、当相談室が朝日新聞で紹介された記事をご覧になって来室されました。視診では、外反母趾、ハンマートゥー、第2趾の第2関節上部のタコ、足裏のタコ、ウオノメ等がみられました。



その方のフットプリントをとってみると・・・2008年9月第1中足骨骨頭にかかなりの荷重がかかっているのが分かります。また、偏平足でもありましたし、各指先にかかなり力はいっており、その部分にタコや魚の目がありました(フットプリントは右足です)。6ヶ月後の測定では、第1中足骨骨頭(で囲んだ部分)の荷重は軽減されていました。その代り指先の荷重が一見増えたように見えますが、これがおどろき！第2趾に乗りあがっていた親指の外反が少し戻ったため荷重が一時的にかかっているようですが、タコなどのトラブルはでていません。今後の変化が楽しみです。

2008年9月

2009年3月



*フットプリントをとる時には、スティックで足部からまっすぐにおろした90度ライン、斜めにおろした45度ラインを引くため足囲に2本の線があります。外周にチョコチョコと4か所マークをしているのは、アーチサポートを入れる際の重要なデータになる、第1中足骨骨頭、第5中足骨骨頭、第5中足骨骨頭基部、載距突起の場所です。また、5本の指の向きも記録します。次回は正しい靴の選び方や履き方について事例を盛り込んでお伝えをする予定です。

(つづく)

情報誌「ささえ」は、年4回の発行で、これまでに27号発行することができました。毎回、原稿の執筆をお引き受けいただいている関係者には心より感謝申し上げます。また、印刷を担当して下さっている「よしみ工産(株)」様(NPO団体会員)には毎回とてもきれいに仕上げてください本当に有難うございます。(事務局大山)

心ひかれた福祉用具 マイチョイス (シリーズ7)

NPO福祉用具ネット会員(理学療法士) 井内 陽三

100歳!!の入浴。ばあちゃんの鼻歌が聞きたい!

あるケアマネジャーからの一本の電話。ケアマネ:「今度、お風呂に入りたいと希望のある人の入浴動作を見てもらいたいけど、同行してもらっていいですか?」 PT:「いいですよ。どんな方ですか?」 ケアマネ:「目がお悪くて、骨がもろくて、100歳になる方で…」とりあえず、利用する可能性のあるサービスの方々(看護師、ヘルパー、福祉用具業者)とともに、ケアマネさんの案内のもと、その方の自宅を訪問。訪問するときの荷物の中、やや表情乏しく家族の方と待っていました。現状をうかがうと、今までは、家族介助で入浴していたが、浴槽の出入りが難しくなっているとのこと。浴室内は、やや深めの和式浴槽が半分埋まっているタイプ。現在は、コタツからあまり動かずに、トイレのときだけ、這って(四つ這い)動くとのこと。さてさて、この状況での「ベストな入浴」とは?

この状況からは様々な方法が考えられますが、皆さんであればどう入浴プランを組みますか?

かなりの高齢で、活動性が低いからデイスサービスなどの通所での機械浴が良いのでは?

安全性を考えて、訪問入浴がベストでは?

分離型のシャワーキャリーに乗せて、浴室内はリフトで、吊って入れればよいのでは?

ヘルパー二人介助で、浴槽出入りもひっぱり上げれば、何とか入浴できるのでは?

今回訪問したチームで考えたプランは、 ~ のいずれでもないものでした。

浴室は、居間を出てすぐ隣にあったため、服を脱いで這って入り口まで移動。シャワーチェアに「吊りざぶ」(吊具の種類)を敷き、そこに這い上がって座る。支柱式のリフトで、浴室内からアームを伸ばし吊り上げて浴室内まで移動。浴槽出入りもリフト使用。介助は、初めは看護師とヘルパー、次に状態安定すれば家族とヘルパー。と言うプランを立てました。人によっては、「そんなプランは、動きの悪い高齢者には危ない」と言われるかもしれません。しかし、次のような家族の話聞いて決めたのです。

娘さんによると「遠くまで(親戚の家)出かけて、子供の世話なんかをよう(よく)していました。」「眼も80歳すぎで見えなくなって、手探りで家の中を動くようになりました。おかしいでしょうけど、物を置いて狭くしているとばあちゃんにとって動く場所がわかって、いいんです。」「おばあちゃんは、いろんな大変な事があってつい最近までつらいことがあったんです。そんな中で、お風呂に入るのが一番の楽しみで、中に長く浸かって、機嫌がいいと鼻歌もでてたんですよ。」

後日、リフト設置後に実際の支援確認のため同行しましたが、残念ながら鼻歌は聴けず…。「きついただけだったかな…」と反省しかけ…。しかし、入浴後に看護師「気持ちよかったですか?」に対し、「はい!」と満面の笑顔。みんなも笑顔に。大逆転の幸せな気分を分けてもらえた瞬間でした!

(入浴支援のワンポイント)

「移動 脱衣 浴室内動作 洗体 浴槽出入り 身体拭き 更衣 移動」など各動作を考えるだけでなく、全体の流れで矛盾がないようにしましょう。また、「いつ、どこで、誰が、どのようにする」手順も大切です。本人への負担、介助者(ヘルパーなどを含む)の身体への負担も十分に考慮しましょう。

(負担が大きい方法は長く続かず、事故の危険も出てきます。より安全で、利用者と介護者ともに余裕が持てる方法を取りましょう。)



今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その18)

九州日立マクセル(株)開発本部長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット理事)

いよいよ幕開けだ

今日も晴天、気分は最高!

今日から3日間の国際福祉機器展が始まる。果たしてお客はどれくらい来てくれるのだろうか。商品は壊れずに3日間展示し続けられるだろうか。難しい質問は出ないだろうか。

展示会場の開場まであと1時間あるが、展示会の説明メンバーは、誰も不安でいっぱい面持ちで、早めにホテルを出た。「ガラガラ…」とキャリーバッグを引きながら、みんな無口で、緊張感が漂っている。

開場までに間に合わないといけないので、不馴れな土地を考えて、展示会場から近いホテルに泊まった。

お台場のビッグサイト会場までは、「ゆりかもめ」という電車が便利である。ホテルから近くの駅まで歩いて5分程度、

電車に乗り込んだ。この電車は会場行きのはずだが、既にぎゅうぎゅうの満員である。日本で一番大きい福祉機器の展示会といわれているが、この電車の込み具合からすると頷ける。

開場まではまだ時間があるから、この車内の人は一般の見学者ではなく、みんな同業者かと思うと、なんだが武者震いがして、闘争心が沸いてくる。負けるものかと。やがて電車は会場の正門駅に到着。駅から会場の入り口までひとの列がながながと続いている。先頭を行っていた大山は、振り向いて、「すごい沢山の人やね。やっぱり来て良かったね。きっと私たちの商品をお客は気に入ってくれるよ!」そう言って、緊張している皆を勇気付けた。いつも前向きな考えである。

突然起きた商標事件

ブースに着くと、他のブースの人たちはすでに準備を始めていた。私たちが商品に掛けていたクロスを剥ぎ取ってならべた。初めてのNPOの商品、床ずれ防止マットが光って見える。そのマットの表面に「P・Wave」(ピーウエーブ)のブランドが張り付けられている。



そのとき、
一人の男性
がブースに

やって来た。

しばらく突っ立ったままP・Waveをじっとみていたが、「私は真向かいのブースのものですが、P・Waveは

私たちのブランドですから、勝手に使ってもらったら困りますね。展示は止めてください。」

というではないか。

「代表者は誰ですか?」

と、まるで犯罪者扱いである。

奥に居た大山は、何かと慌ててブースの表に出てきた。

「私が責任者ですけど、…」

事の重大さがまだ飲み込めていない大山は、名刺を差し出しながら、

「何か不都合でも?」

その男性は、大山の名刺を見もせずにズボンのポケットにねじ込みながら勝ち誇った顔をして、

「P・Waveの名前を勝手に使われると、私たちの商売の邪魔になるんですよ。私たちは、ちゃんと商標権を持っていますから」

と、自分の会社のブースの方を自慢げに指差した。

指差されたほうを見ると、確かにブースのパネルに、
(P・Wave)

と書かれている。

これは一大事である。商品の展示が出来なくなる。カタログも配れなくなる。多額の費用を掛け、多くの時間を費やして、わざわざ九州から、多くの人に見てもらおうとやって来たのに、何も出来ないまま店じまいしなければならなくなる。開店の準備をしていたほかのメンバーも手を止めて、息を呑んで見守っている。

大山の反撃

しかし大山はひるむこともなく、

「私たちも商標は、ちゃんと調べておりますよ。丁度今日、私たちの商標の専門家が一緒に来ておりますので、その担当と話してくださいよ。」

最後は語気を荒げながら、そう言い返した。

「私が担当です。ここで話すのは展示の邪魔になるのであちらに行ってお話ししましょう。」

大山の横に立っていた坂田は、先にたつてその男性をブースから連れ出した。男性はやや大股な感じで坂田の後について出て行った。

ポーンと見送っていたほかのメンバーを見て、大山は、何事も無かったかのように、

「はい、他の人は早く開店の準備をして。」

と元気付けたが、やはり心配そうに坂田の後姿を見送っていた。

10分くらい経って坂田が一人で戻ってきた。

「どうなったん!」

大山が坂田に聞く声で、他のメンバーも集まってきた。

「心配いらんよ。ちゃんと話つけたよ。」

坂田は笑いながらそう言うが、大山はまだ心配そうな顔で坂田を覗き込んでいる。

「あなたのほうが商売の邪魔をしていると言ってやったよ。あの会社は、まだ出願しただけで商標権の権利は持っていなかったよ。あの人は商標のことを良く知らなかったんだ。だから、あなたの会社がちゃんと権利を取れたら、そのときに改めて話をしましょうと言ったら、納得してくれたよ。」

「それじゃ、このまま展示してもいいんやね？」

「ああ、問題ないよ。うちも出願しているから、多分うちの勝ちだよ。」

坂田はそう言って皆を安心させた。

しかし実際は、坂田は一抹の不安を持っていた。

“もし、うちが負けたら、今日のところは展示できても、今後はP・Waveのブランドを使えなくなるかもしれない。”

しかし坂田は、笑い顔で皆を安心させようとしていた。大山は、そのことに気づかないフリをして、

「みんな、良かったね。じゃー頑張ろうかー」

と励ました。

なんだかいやな思いを抱いたまま、オープニングが始まった。ゲートが開くと一斉に人がなだれ込んできた。

いつしかメンバーは先ほどのいやな思いを忘れたかのように、ブース前を通る人に、声をかけ、カタログを配っていた。坂田は不安を隠す顔を悟られまいと、ブースから少し離れて、自分たちのブースを見つめていた。

果たしてお客は来てくれるのか

開店して1時間くらいが経った。

なかなかお客がブースの中に入ってくれない。素通りする人ばかりである。

ブースパネルの「NPO福祉用具ネット」の文字を読んで通り過ぎる人が多い。確かに誰もNPOの名前を知るわけがない。中にはチラッと覗いてくれる人や呼び込みの声に足を止めてくれる人も居るが、どうも真剣に見てくれる人は居ない。

見かねた大山は、

「このレイアウトじゃ入りにくいかも知れんね。その車いすを表に出して、入り口を広くしようか！」

と車いすを通路に押し出した。カタログラックも前に出した。ぐっと間口が広がった。

そんなとき、車いすに乗って松尾先生が戻ってきた。

「みんなご苦労さん。どうかね？盛況かね？」

松尾先生は、あまりにも客の入りの少なさを見かねて、

「開場を1周して、知っている人を連れてくるから」

とNPOのスタッフジャンパーを着て出かけていたのだ。

その言葉の通り、お客を連れて戻ってきた。顔の広い先生は頼もしい。



「立派なブースですね！」

そのお客は開口一番、ブースをほめた。続いて、

「これですか、先生のお薦めのマットは…」

そういいながら、マットカバーをめくった。

「面白い構造ですね。体圧分散は十分ですか？」

それを聞いて松原先生が、得意げに解説を始めた。しばらく問答が続いて、そのお客は

「なかなか良さそうですね。」

と言いながら、肩から下げていたかばんを床に置いて、マットの上に横になった。

「寝心地は大切ですからね…」

とごろごろ寝返ってみて、

「あまり圧切り替えのポコポコ感が無いですね」

と印象を語った。

それを聞いた大山は、

「ポコポコ感があると安眠を妨げますから、気づかれないうらいに、そっと切り替えているんですよ。」

と寝心地の特徴をアピールした。

そのお客は、納得したかのように

「私の知り合いにも紹介しておきましょう。多分、今日この会場に来ているはずですから」

とカタログを何枚か取って、松尾先生に挨拶をして出て行った。

「まずはネットワークで広げて、皆に認知してもらわないとね…」

と言い残して松尾先生は、また客探しに出かけていった。

これがきっかけになったのか、次々とお客が覗き込むようになった。

そんなお客の一人から、

「どうしてNPOが商品まで開発しているんですか。珍しいですね。NPOの活動について教えてください。」

と商品とは関係のない質問を受けた。確かにそうかもしれない。このNPOは他のNPOにない特徴があるのだろう。

大山は、NPOのカタログを広げて説明し始めた。その質問者は、他県の自治体の産業振興課の人だった。(つづく)

事務局からのお知らせ

平成21年度通常総会及び講演会のご案内

日時:平成21年5月18日(月)曜日

17時30分から受付

総会開催の前に講演会を開催いたします。

18時から講演会開始

テーマ「ドイツの認知症ケアについて」

講師 NPO福祉用具ネット理事長 豊田 謙二先生
(熊本学園大学大学院教授)

場所:福岡県立大学内

講演会は会員以外の皆様も参加できます。(無料)

会員の皆様は引き続き同じ会場にて18時40分から通常総会を開催致します。

平成21年度第1回研修会のご案内

日時:平成21年4月19日(日)曜日

9時から受付

10時から16時まで

テーマ「介護職のための腰痛対策講座」

～福祉用具の上手な活用法～

講師 市川 洵先生

福祉技術研究所(株)代表取締役

場所 福岡県立大学大講義室

受講される方は有料で事前に申し込みが必要です。

申込締切は4月11日(土)曜日までです。

ホームページにもご案内と申込用紙を掲載しています。

平成21年度NPO福祉用具ネットの新会員を募集しています。

会員となって一緒に活動をささえていただけませんか？(会員には研修会受講費用の割引あり。)

個人会員 入会金 1,000円

年会費 4,000円

団体会員 入会金 2,000円

年会費 30,000円

賛助会員 1口 3,000円以上から

お問合せは事務局まで。

ホームページから申込用紙がダウンロードできます。

20年度会員の皆様で更新手続きをまだ済まされていない方は早めにお願ひ致します。

個人会員様の年会費 4,000円

団体会員様の年会費 30,000円

平成21年度「福岡県立大学福祉用具研究会」開催のご案内

参加者がテーマに沿って一緒に意見交換をする学び

の場です。

平成21年度のテーマは「排泄ケア」を中心に、5月から11月まで7回シリーズで開催を予定しています。

事前に所定の申込用紙によるお申込が必要です。

詳しくはホームページをご覧ください。

お申込締切4月末です。

NPO福祉用具ネットのこれまでの活動内容はホームページからもご覧いただけます。

NPO福祉用具ネット発行の「トランスファーボードを使った移乗マニュアル」を販売しています。腰を痛めない介護技術を習得するための手引きとして活用いただけるものです。一冊500円。

情報誌「ささえ」に対するご意見や感想は事務局までお願いいたします。

これらに関するお問合せ先

NPO福祉用具ネット事務局 担当大山まで。

電話/ファックス 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyounet@sage.ocn.ne.jp

福祉住環境コーディネーター協会主催見学会のご案内

福祉住環境コーディネーター協会からの委託事業として当NPOでは施設見学の企画をしています。

・4月22日(水)曜日

「杉乃井ホテル」様(別府市)

ホテルには高齢者や障がいの方にも配慮したフロアとして、グッドタイムフロアを見学予定

・5月15日(金)曜日

「サンアクアトートー」様(北九州市)

重度障がい者雇用企業優良事業所で障がいをお持ちの皆様が働きやすいように建物にさまざまな配慮がなされています。

・6月12日(金)曜日

「介護保険総合ケアセンターいずみの園」様(大分県中津市)

ユニットケアやデイサービスなど介護事業を全国に先駆けて取り組んでおられる施設です。

他の施設を見学させていただくことで見聞が広がります。是非一緒に見学に参加しませんか？

参加費用は有料です。事前に福祉住環境コーディネーター協会への申込が必要です。詳しくは福祉住環境コーディネーター協会のホームページをご覧ください。

(福祉住環境コーディネーター協会会員様優先となっています。NPO福祉用具ネットへのお申込はお受けできません。)